



昴の今日と明日Ⅱ

No.57, Jan.14, 2014 (編集・発行)昴☆共生社会研究所

年頭にあたって

平成 26 年度予算政府原案に思う

増え続ける社会保障費と借金

平成 26 年度予算の政府原案が発表されました。一般会計 95 兆 8 千億円は史上最大の予算額で、前年度比 3.5% 増となっています。一方、これらの歳出を支える歳入は、税収が消費税アップ分を含めて 50 兆円余りと見込まれ、国債は 42 兆円余が新たに発行され、借金への依存率は 46% と依然として極めて高い水準です。借金を返すために借金を重ねる、いわば国が多重債務者状態になっているということです。しかし、安倍政権は「異次元の金融緩和」と「大胆な財政出動」を選択し、当面の借金などは気にしない風情です。

予算の中で最も伸び率が高いのは公共事業費関係で 13% 増と突出しています。社会保障費も 4.8% と伸び率が高く一般会計の 30% 以上で総額 30 兆円を超え、公共事業費約 6 兆円の 5 倍となりました。

少子高齢化がますます進む中で、年金、医療、福祉に加えて子育て関連の社会保障費は「自然増」を考えると今後も伸び続けざるを得ません。

その中でも、厚生労働省の障害保健福祉部の予算は対前年度 7.4% 増の 1 兆 5000 億円となっています。とりわけ障害福祉サービス関係費（自立支援給付+地域生活支援事業）は総額 9500 億円（国負担分のみ→地方分を加えると約 2 倍）で 9.5% の伸び率です。でありながら、新規の事業はほとんどなく障害福祉サービスの給付を受ける人が増え続け、一人ひとりの給付額も増えていることを反映した結果と思われる。その他の予算は自立支援医療や障害児支援に充てられています。

もちろん、こうした傾向は障害のある人やその関係者にとって喜ばしいことはいうまでもありません。しかし、手放しで喜ぶには少し気が引けるところがあります。先ほど、述べたようにわが国が世界最大の借金国だからです。例えば社会保障費も含めて、どうあれ

借金に依存した予算なのだから、後世つまり若い世代あるいは今は子どもの世代にツケを回すことにならないかという心配です。

安倍政権は成長戦略による「景気回復」はいつでも「財政再建」は口にしません。アベノミクスによれば、景気が回復すれば企業業績だけでなく賃金も上がり、税収もアップする「はず」といいます。しかし、今 50 兆円の税収しかないのに、それがいくらになるのでしょうか。企業を応援するための税制改革（例えば法人税率の引き下げ）をするといいますが、それで土いくら賃金が上がると保障されるのでしょうか。あるいはどれほどの税収アップにつながるのでしょうか。

いずれにしても 1000 兆円の借金からは逃げられません。これからも借金が増え続けていけば、いずれ破たんが待ち受けているように思われます。それでも、今は問題の先送り、どうせ 20-30 年先には生きちゃいないとばかり無責任な世論迎合の政治が続き、今がよけりゃと国民も支持しています（安倍政権の支持率は 60% 台を回復したとか…）。いよいよとなれば、「秘密保護法案」で都合の悪いことは隠しおおせばいいとでも？。誰にも明確な処方箋を書けない難しい時代です。

こんな時には、単純に根拠もなく自信たっぷり振る舞う現政権のような輩の方が人気が出るようです。

しかし、障害者の福祉という課題を考え続けてきた我々は、競争ではなく共生を基本的価値観とする社会づくりに未来の可能性を感じます。

奪い合うよりも与え合う、競い合うより手を取り合う…子どもの頃に読んだ童話や絵本にはそんな教えがいっぱい詰まっていたことを思い出してみたいと思う年頭です。 (昴☆共生社会研究所長/佐藤)



あきらめたら負けだ。
頑張ってみようゼイ！